

令和5年度学校自己評価

鳥取県立智頭農林高等学校

中長期ビジョン (学校ビジョン)	「地域産業及び社会の発展に貢献できる人材の育成」 ～一人一人の生徒を大切にした教育の実践～	本年度 重点目標	1 専門教育の充実 2 学力向上 3 キャリア教育の推進 4 こころの教育の充実 5 地域連携の充実 6 情報発信の充実	(1) 質の高い専門教育の実践 (2) 資格取得の推進 (1) 基礎学力の定着 (2) 授業力の向上 (3) I C T等を活用した教育の実践 (1) 進路指導の充実 (2) 職業観・勤労観の育成 (1) 規範意識の醸成 (2) 自己理解・他者理解に基づいたよりよい人間関係の構築 (3) 自己肯定感の育成 (1) 地域の教育資源の活用 (2) 科の特色を生かした地域連携の推進 (1) 学校ホームページ、体験入学、中学校説明会などにおける本校の魅力の発信 (2) 広報活動の充実
---------------------	--	-------------	---	---

年 度 当 初					中間評価 (1 0) 月			最終評価 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 専門教育の充実	(1) 質の高い専門教育の実践 (2) 資格取得の推進	○アグリマイスター制度の認定者数は、R3年度は1名であったが、R4年度0名となった。 ○実習は少人数で丁寧に指導を行っているが、生徒の主体的な活動にまで至っていない。 ○資格取得に対して、意欲的な生徒と無関心な生徒の二極化が見られる	○地域産業との連携を有効活用し「スーパー農林水産業士制度」・「アグリマイスター制度」などの高度な知識と技術を必要とする専門性の高い制度を生かした、進学・就職ができる。 ○生徒自らが目標を設定し、その目標に向かって主体的に学習に取り組んでいる。 ○生徒は卒業までに社会で即戦力となる資格を1つ以上取得している。	○毎日の授業の中で、地域の産業や教育機関との連携を深め、また社会人講師等を積極的に活用し、高度な技術を教わり習得する。 ○職員は個々の生徒の特長の理解を共有し、連携を図り指導を行う。 ○授業で基礎基本を学習した上で、資格取得に臨む指導を行う。						
2 学力向上	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業力の向上 (3) I C T等を活用した教育の実践	○生徒の特性や実状に即した丁寧な学習を展開しているが、授業改革に向けた研修等の実施ができていない。 ○生徒の授業アンケートでは、「専門科目の学習に意欲的に取り組んでいる」が9 6 %、「授業をとおして基礎学力が身につけている」が8 3 %である。 ○教職員を対象としたI C T機器活用講習会を実施し、授業での積極的な活用が見られている。	○成功体験の積み重ねや学び合いのある授業、I C Tを活用した授業、授業のユニバーサルデザイン化などの取組が組織的に行われており、生徒の基礎学力向上につながっている ○生徒の授業アンケートの「専門科目の学習に意欲的に取り組んでいる」の項目が9 0 %以上、「授業をとおして基礎学力が身につけている」の項目が8 0 %以上になっている ○教職員によるタブレット端末の活用環境が整い、I C T機器を活用した教員の活用実践が高まっている。	○授業のユニバーサルデザイン化について、教職員の共通理解を図る。学習意欲を高め、わかりやすい授業の展開を促すためのI C T機器の活用方法を研究する。 ○生徒各自の特性や対人関係に配慮して、生徒の実情に即した学習方法を模索し、授業改革を進める ○授業タブレットを活用した授業研究会、授業実践報告会や各種研修会への参加をとおして、実践力の養成を推進する。						
3 キャリア教育の推進	(1) 進路指導の充実 (2) 職業観・勤労観の育成	○勤労意欲は高いが、継続的な学習に取り組めず、基礎学力の向上が求められる生徒がみられる。 ○本校の教育内容と関連した企業への就職や学校への進学が年々増えている。 ○インターンシップにおいても科の学習内容と関連した企業を選択する生徒が増えてきている。	○専門的な技術を習得して、地域の担い手として地域社会に貢献しようとする意識を持っている。 ○上級学校への進学を目指し、意欲的に専門的な資質・能力を習得し、地域の将来を担うリーダー的存在を輩出している。 ○本校の教育内容と関連した企業等への就職者及び専門性を活かした進学者の割合が4 0 %を超える。	○「ふるさとキャリア教育全体計画」に従い、生徒個々のキャリア発達を促す。 ○インターンシップ、校内企業説明会、上級学校見学会および社会人を活用した事業等をとおして、自己実現について考える。 ○適切な進路情報を発信することで、生徒の意識を高める。						
4 こころの教育の充実	(1) 規範意識の醸成 (2) よりよい人間関係の構築 (3) 自己肯定感の育成	○他人の気持ちを察することが苦手な生徒が少なくなく、生徒間トラブルを繰り返す傾向がある。 ○人間関係の構築に困難な生徒が生徒が在籍しており、生徒支援や指導、教育相談部との面談を実施している。 ○学校生活全体で人権教育に取り組んでいるが、相手に対する思いやりに欠ける言動がみられることがある。 ○週1回の執行部連絡会の徹底により、行事の目標の明確化や役割分担がわかりやすくなり、主体的に活動できるようになってきた。それを、クラス役員活動にも広げていくことが大切である。	○生徒が安心・安全に学校生活を過ごすことができる体制を構築する。 ○生徒一人ひとりが居心地のよいクラスの中で落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○生徒一人一人の人権意識が向上し、現在よりも相手に思いやりをもった行動ができるようになる。 ○学校行事・生徒会活動・農業クラブ活動・家庭クラブ活動・クラス役員活動を主体的に企画・運営することで、多くの生徒がリーダーシップを養い、学校を活性化させる。	○問題行動への対応のみならず、授業規律の徹底や学校行事などをとおして自己肯定感や自己有用感を育成し、問題行動の予防に努める。 ○担任・関係職員と保護者、SC・SSW、外部機関と連携を密にして、生徒の支援にあたる。 ○昨年度と同様、日常生活や人権LHRでの取り組みが必要である。 ○学校行事・生徒会活動・農業クラブ活動・家庭クラブ活動・クラス役員活動を通して、自主性・積極性・協調性を身につけ、自己肯定感へつなげる。						
5 地域連携の充実	(1) 地域の教育資源の活用 (2) 地域連携の推進	○ちのりんショップ・地元の保育所との菜園活動や、福祉施設での実習など、地域交流の場ができており、様々な人との関わりを学ぶことができている。 ○地域連携活動を発信して本校の特色や魅力をPRしている。 ○地域産業の「藍染」や「造園」等、地元職人と連携した活動を行っている。	○地域連携事業の活用により、地域の方との交流をとおしてコミュニケーション能力や表現力が向上している。 ○生徒や教職員の専門的知識や技術力を地域に発信している。 ○地域連携の取組が浸透し評価され、地域アンケートの各取組について「良い活動」と「まあまあ良い活動」と回答している割合と「地域の活性化に役立っていると思いますか」の項目が9 0 %以上になっている。	○地域の保育園・高齢者福祉施設との園芸交流、藍染交流・ちのりんショップの取組をさらに推進する。 ○地域住民と関わる機会を増やし、主体的な活動の場を設ける。 ○「地域基礎」の一層の充実を図る。						
6 情報発信の充実	(1) 本校の魅力発信 (2) 広報活動の充実	○学校紹介動画作成・学校行事等のホームページによる配信に努めている。地域アンケートに「ホームページが見やすく、リニューアルされたのが良かった」とのご意見を頂いている。 ○学校ホームページの更新回数は増加傾向である。 ○生徒会行事や部活動の大会等の情報発信に取り組めているが、地域(智頭町)への情報発信に継続性がいまいちである。	○生徒や教職員の専門的知識や技術力を地域に発信している。 ○学校ホームページの更新を随時に行い、閲覧数が前年度より増加している。 ○生徒会執行部の生徒自らが智頭町のホームページへの記事の掲載の頻度を増やしていく。	○YouTube動画の配信を行う。 ○学校ホームページの更新手順を教職員に周知し、迅速に情報提供を行う。 ○智頭町の「高校生ライター」の研修を執行部全員が受け、智頭町への情報提供の頻度を増やしていく。						
7 学校業務の改善	(1) 長時間勤務者の解消 (2) 業務の効率化	○昨年度は、時間外業務が月4 5時間、年3 6 0時間を超える教職員がいなかった。 ○昨年度分掌制がスタートし、分掌主任とのこまめな情報共有を行うことで課題の改善に務めた。	○時間外業務が、月4 5時間、年3 6 0時間を超える教職員がない。 ○分掌制の効果と問題点を検証し改善を図り、業務の継続性と効率化を進める。	○時間外業務の時間が多い職員へ、個別に縮減を呼びかける。また業務分担について担当者で検討する。 ○各分掌部長と定期的に情報交換を行い、分掌業務の改善に繋げていく。						

評価基準 A：十分達成 [1 0 0 %]

B：概ね達成 [8 0 %程度]

C：変化の兆し [6 0 %程度]

D：まだ不十分 [4 0 %程度]

E：目標・方策の見直し [3 0 %以下]